

リアルを追求
フィギュア文化を日本に定着企画力
自信有
オンライン
ワン技術

恐竜フィギュアを配した本社

業務内容
ガレージキットの
バイオニア

創業者が営んでいたホビーショップに、プラモデル好きのマニアが集まった。子ども頃から輪の中にいた宮脇修一社長はプラモデル組立代行を行う中で「自分たちが満足できるモノを自分たちの手で作り出そう」との思いを強めていった。

昭和55年頃にオリジナル製品の企画・開発・製造・販売を始め、ハイクオリティモデルに端を発するフィギュアの一大ムーブメント「ガレージキット」を生み出した。平成11年には「海洋堂」の精巧な動物フィギュアが入った「チョコエッグ」が食玩ブームを巻き起こし、日本におけるフィギュアの地位確立の契機となった。

強み
労を惜しまず、先鋭、
独自の造形表現を生み出す

昔のプラモデルは社会的な地位が低く、同社はその評価を覆そうとリアルフィギュアづくりを志向してきた。先鋭的な企画、独自の造形表現のフィギュアを送り出すためにはどんな労をも惜しまない。

異業種企業とのコラボレーションにおいても、同社が主導権を持って企画を行い、予算度外視で本物づくりにこだわる。それだけに利益が上がらないこともあったが、宮脇社長は「四六時中良いモノを作ることだけを考えている」と話し、社員も含め「趣味は模型、仕事も模型」という日々を送っている。

個性重視
個性を追求したものづくり
技術は後からついてくる

同社では、各人が好きでたまらない分野を突き詰めることで、その道ではだれにも負けないフィギュアを生み出している。題材は人物、動物、仏像など多岐にわたる。製作工程は、原型をつくり出し、塗装・彩色を手がける原型師、複製を手がける人に分かれる。専門的な勉強をしてきた人はほとんどいないが、宮脇社長は「日々、好きなモノを作っていると、自然と技術も身に付いてくる」と語り、実際に道を極め第一人者に育った作家も多い。誇りをもって作り上げた作品を保証するため、同社が送り出すすべてのフィギュアには造形作家の名前を入れている。

今後の
展望
日本を手始めに
海外でもファン拡大

今や「海洋堂」の名前は広く知れ渡っている。ただし宮脇社長は「日本にはフィギュアを飾る文化はもともとない」と、決して現状に満足しているわけではない。フィギュア文化を生み出してきたバイオニアとして、博物館などの異業種との連携により、本物のフィギュアに人々が触れる機会を増やしていく。

「創るモノは夜空にきらめく星の数ほど無限にある」を掲げ、誠実なものづくりを志向する姿勢は変わらない。フィギュア文化を日本で定着させる一歩、海外でも大英博物館との連携企画など布石を打っており、世界に海洋堂ファンを広げていく。

フィギュアの
製作現場食玩ブームを
巻き起こした
「チョコエッグ」
のフィギュア

当社の歴史



近年のホビー（フィギュア）業界の方向性や景色を激変させてきた造形集団です。「より優れたものづくりを志向する限り、容易な妥協は許されない。冒険する、つまりチャレンジ精神がなければ新しいモノの創造はできない」を基本に、日夜一生懸命精進しています。

代表取締役 宮脇 修一さん

<http://kaiyodo.co.jp/>

主な事業内容

フィギュア立体ノベルティ
アイテムの造形、企画製作

主な取引先(納入先)

アマゾンジャパン(株)、
(株)ニュートラルコーポレーション、
ユニオンクリエイティブ(株)、
(株)ケンエレファント●住所 〒571-0041
門真市
柳町19-3●TEL 06-6909-1051
●FAX 06-6908-3077
●創業 昭和39年4月
●設立 昭和39年4月
●資本金 2,000万円
●従業員 42名大版
28